

授 業 科 目 名	子ども家庭福祉	教 員 名	高橋 博	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	講義	担当形態	単独	卒業要件	保育士	必修
科 目 番 号	SEN305	配当年次	3年次後期		こども音楽療育士	
単 位 数	2単位			小幼コース	選択	
科 目						
施 行 規 則 に 定める科目区分 又は事項等						
科 目	告示別表第1による教科目					
系 列	保育の本質・目的に関する科目					
一 般 目 標	子どもと家庭を取り巻く状況は、少子化、核家族化、家庭や地域の子育て機能の低下、就労や経済的課題など厳しさを増している。そこで、保育教諭に求められる子どもと家庭の福祉について理解を深める。					
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 					
授 業 の 概 要	子どもと家庭の現状や課題を知り、子ども家庭福祉の理念や歴史をふまえつつ、現代社会における子ども家庭福祉の意義を理解する。そして、子ども家庭福祉の動向と展望について考察を行う。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	<p>第1回：講義概要の説明（本講義の主旨および講義計画について） 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷Ⅰ（目標1） ・子ども家庭福祉の理念と概念</p> <p>第2回：現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷Ⅱ（目標1） ・子ども家庭福祉の歴史の変遷</p> <p>第3回：子どもの人権擁護Ⅰ（目標2） ・現代社会と子ども家庭福祉</p> <p>第4回：子どもの人権擁護Ⅱ（目標2） ・子どもの人権擁護の歴史の変遷 ・子どもの人権擁護と現代社会における課題</p> <p>第5回：子どもの人権擁護Ⅲ（目標2） ・児童の権利に関する条約</p> <p>第6回：子ども家庭福祉の制度と実施体系Ⅰ（目標3） ・子ども家庭福祉の制度と法体系 ・子ども家庭福祉の実施体系</p> <p>第7回：子ども家庭福祉の制度と実施体系Ⅱ（目標3） ・児童福祉施設 ・子ども家庭福祉の専門職</p> <p>第8回：子ども家庭福祉の現状と課題Ⅰ（目標4） ・少子化と地域子育て支援 ・多様な保育ニーズへの対応</p> <p>第9回：子ども家庭福祉の現状と課題Ⅱ（目標4）</p>					

	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健と子どもの健全育成 <p>第10回：子ども家庭福祉の現状と課題Ⅲ（目標4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども虐待、DVとその防止 ・社会的養護 <p>第11回：子ども家庭福祉の現状と課題Ⅳ（目標4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある子どもへの対応 <p>第12回：子ども家庭福祉の現状と課題Ⅴ（目標4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少年非行等への対応 <p>第13回：子ども家庭福祉の現状と課題Ⅵ（目標4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 <p>第14回：子ども家庭福祉の動向と展望（目標5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 ・地域における連携・協働とネットワーク ・諸外国の動向 <p>第15回：振り返りとまとめ</p> <p>期末試験</p>
学生に対する評価	<p>レポート・発表40%、期末試験60%</p> <p>なお、レポート等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載してメールで返信する。 ・授業にて口頭で行う。
時間外の学習について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回講義の最後に、次回の講義内容のテキスト箇所を伝えるので、入念に予習しておくこと。また、不明な点等は調べておくこと。 ・毎回講義の最後に、レポート課題を示すので、次回の授業の前日までにメールで提出すること。 ・講義で使った資料やノートファイル管理を徹底すること。 ・講義で使用したテキスト箇所を必ず復習しておくこと。
テキスト	吉田幸恵・山縣文治『よくわかる子ども家庭福祉 [第2版]』 ミネルヴァ書房 2023年
参考書・参考資料等	<p>『児童の権利に関する条約』</p> <p>『幼稚園教育要領（平成29年告示）』</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）』</p> <p>『保育所保育指針（平成29年告示）』</p>
担当者からのメッセージ	自学自習、ディスカッション、発表など積極的なアクティブラーニングに取り組むこと。
オフィスアワー	メールにて対応する。